

2月22日(木) 1階多目的室 9:00~9:40

1 題材名 「かたちについて考えてみよう」

2 考える価値内容 世界

3 題材について

子どもたちは、この1年間「夢」「がまん」というテーマに沿って学習を行ってきた。特に、2学期に行った「がまん」というテーマでは、がまんをしたり、されたりする場面での気持ちを考えたり、どんなときにがまんすることが必要かを考えたりしていく中で、「がまんしているか、していないか。その時に、どんな気持ちなのかは、自分が捉えていることと、相手が捉えていることが違う」ということが、少しずつ明らかになっていった。子どもたちは、考え方・捉え方は多様である。ということを実際の場面に照らして考えられるようになってきているのではないかと、という実態から、少し大きなテーマ「かたち」について3学期は考えてみることにした。

このテーマは、算数の学習で図形を扱っている時に、子どもたちから出されたものである。

算数の図形領域での学習履歴は、平面図形から立体図形へという概念理解。さらに、図形の扱いは、特殊図形(正方形・直角三角形・平行四辺形・立方体など)の性質や特徴から、一般図形へ。また、点→線→面→立体へなどの流れもある。このような算数での学習の流れと子どもたちが実際に目にし、触れている「かたち」には大きなズレがあるように考える。そこで、題材を「図形」ではなく、「かたち」としている。

「かたち」について子どもたちに素朴に思っていることを聞いてみると、「現実に見えるものは全てかたちがある。」「点があり平面があり立体があり、そのもっと広いところには何があるのか。」「線が持つ意味はなんなんだろうか。」のような発言が上がった。それは、自分達が学習したことと、その外側にある何かを感じ、それについて考えたいと思っていると私は捉えた。またこれらの発言には、私自身が算数科の担当であることで、子どもたちを算数の世界に追い込んでしまっているという危惧もある。そこで、今回てつがくの学習として「かたち」を扱うことにより、学習の世界を突き抜けた広い世界へ子どもたちがどのようにアプローチしていくのかを私自身が楽しみにしている。幼児期以前から触れているさまざまな「かたち」を小学校の学習で、一度焦点化した思考へと押し込め、もう一度「かたち」について考える営みは、知ったからこそ、考える幅が広がっていくこと、さらに思考が広がり深められている自分の成長を実感させることができるのではないかと考えている。

3 学習指導計画(5時間目/全10時間)

- ・「かたち」について、自分の考えをノートに書く 1時間
- ・「かたち」についてみんなで考える問いを探る 2時間
- ・「かたち」についての問いに対して考え、てつがく対話を行う 4時間(本時2/4)
- ・「かたちについて考える」学習を振り返る観点を考える 1時間
- ・「かたち」についての学習を振り返り、自己評価を行う 2時間

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

「かたち」について、問いをもとに対話と振り返りを通して思考していく自分を見つめることができる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
○前回の対話から、「かたち」について自分の考えを振り返り、次の問いについて考える	○いくつかの問いをつなげて話していくので、常に前に自分が何を考えていたか確認する。 ○サークルを中心に置きながらも、自分の席への出入りを自由にする。自分がどんな話に触発されているのか意識させるためである。
○新たな問いについて対話する	
○今日の対話から考えた新たな「かたち」についての考えを残す	